

# 子ども亡くした震災語り部 教訓伝える思い語る 名取

10月31日 11時11分



東日本大震災で子どもを亡くした2人の語り部が震災後の取り組みをふり返り、教訓をどう伝えていくか考えようというトークイベントが29日、名取市で開かれました。

名取市の関上公民館で開かれたイベントには、県内外からおよそ50人が参加しました。

語り部には、▽関上中学校で当時中学

1年生だった長男を亡くした丹野祐子さんと、▽石巻市の大川小学校で当時小学6年生だった次女を亡くした佐藤敏郎さんが出席し、お互いの取り組みから学んだことなどを語り合いました。その中で丹野さんは、「大川小学校の校舎が残っていることはうらやましくも感じるが、同時に辛いことでもあると思う」と述べた上で、「関上地区は言葉で伝えなければ、何も残らないという気持ちで活動している」と思いを語りました。

一方、佐藤さんは、「震災の1年後から活動を行っていた丹野さんからうけた影響は大きく、自分たちが活動するきっかけになった」などと振り返りました。

また、佐藤さんはいま、発信したいことは何かと聞かれると、「あの日の恐怖や失敗が、よりよい未来に結びつくような発信を模索していきたい」と訴えました。

当時、関上で被災した高校2年生の男子生徒は、「被災地を越えてつながっていることがすごいと思った。私も伝える側として参考にしたい」と話していました。

静岡県から参加した60代の女性は、「学んだことを地元で伝え、今後の防災に役立てたい」と話していました。